

# 成果指標説明資料

## 第 2 回基盤整備部会

令和3年 8 月 27 日

# 目次

1. 【主要指標】 県内空港の旅客数、重要港湾の公共取扱貨物量
  - 県内空港の旅客数 . . . 1
  - 重要港湾の公共取扱貨物量 . . . 2
2. 【成果指標】 超高速ブロードバンドサービス基盤整備率 . . . 3
3. 【成果指標】 那覇空港の年間旅客数 . . . 4
4. 【成果指標】 那覇港の年間旅客数・公共取扱貨物量
  - 那覇港の年間旅客数 . . . 5
  - 那覇港の公共取扱貨物量 . . . 6

主要指標の定義（案）

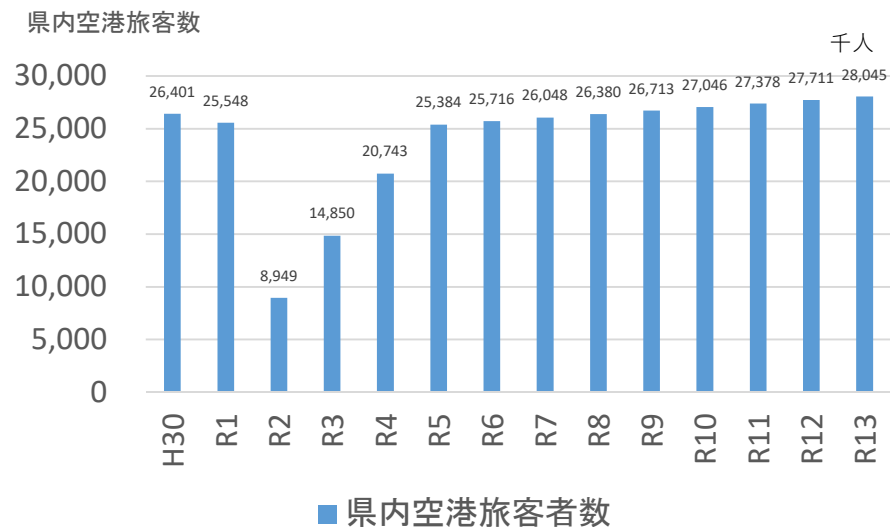
- 那覇空港及び宮古空港、新石垣空港など12の離島空港における1年間の旅客数の合計値。

目標値設定の考え方（案）

実績値（R02）	8,949千人
実績見込み値（R03）	14,850千人
目標値（R13）	28,045千人

・ 離島空港の年間旅客数は県内主要空港である那覇空港需要予測の伸び率を参考に、離島空港も同等の伸び率を設定した。出典：那覇空港滑走路増設事業再評価（原案）

・ 那覇空港旅客数は国際航空運送協会が示した世界の旅客数回復見通しより、令和5年度にはコロナ以前の水準に回復するものと設定し、令和6年度以降の計画値については30万人ずつ伸びていき、令和12年度には国が算出した需要予測値に到達する設定とした。（交通政策課作成）



施策体系図



主要指標の定義（案）

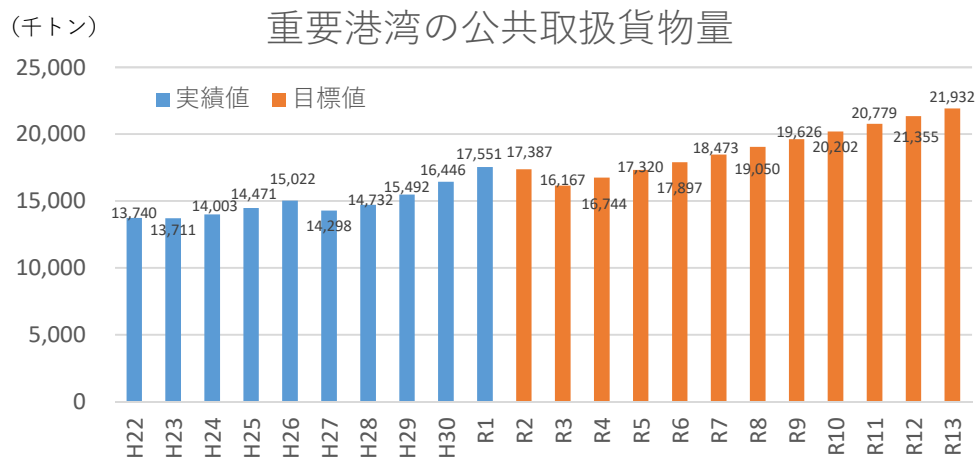
- 重要港湾（那覇港、中城湾港、金武湾港、運天港、平良港、石垣港）における行政が管理運営する岸壁で取り扱われる1年間の取扱貨物量（公共取扱貨物量）を基本施策の主要指標とする。

目標値設定の考え方（案）

実績値（R1）	17,551千トン
目標値（R13）	21,932千トン

令和13年の目標値の設定については、平成22年から令和元年までの実績値を基に近似式を求め、これに新型コロナウイルスの影響を考慮（※）し推計した。

※経済の落ち込みに伴い、令和3年は取扱貨物量が減少すると予想



施策体系図



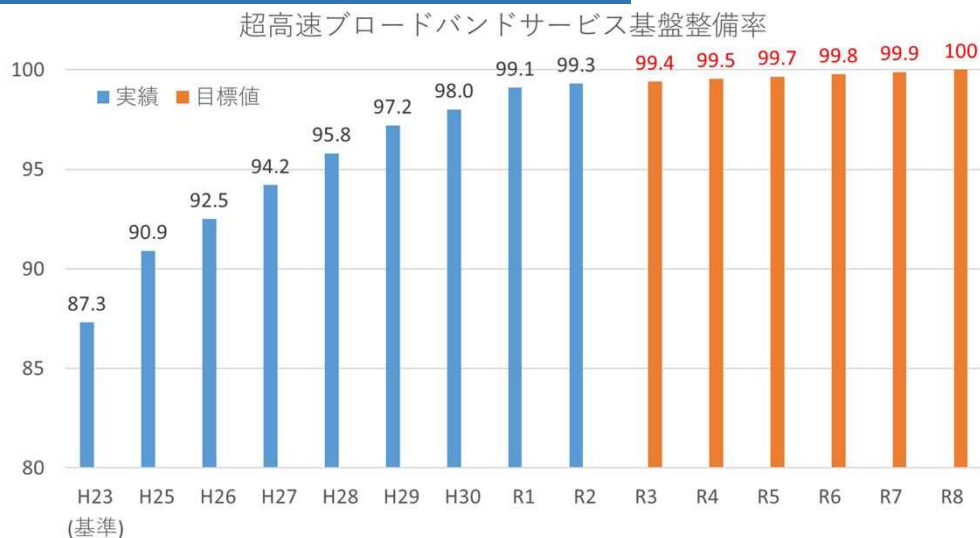
成果指標の定義（案）

- 全世帯に占める超高速ブロードバンド整備完了地域内の世帯数の割合
- 本指標は、移動系（4G、5G）や固定系（FTTH等）の高速・大容量の利用に必要な基盤を示しており、定量的に評価できることから、指標として設定した。
- 5Gの基盤整備率については、総務省からR6末の目標値が示されているが、現時点では、本県の実績値が公表される見通しを確認できない状況にある。
- 離島や過疎地域においては、民間通信事業者による情報通信基盤の整備が進んでいない地域があることから、都市部と同等の情報通信環境の確保に向け、情報通信基盤の整備を行う。
- 出所：県調べ「企画部情報基盤整備課」

主な取組

- ① 情報通信技術を活用できる環境整備（新たな振興計画（素案）P71参照）
  - 先端ICT技術に対応した社会システムの構築や産業の競争力強化に向けては、次世代の通信環境の整備が不可欠であることから、民間通信事業者や関係機関と連携し、海洋島しょ圏の新たなインフラとして、5G（第5世代移動通信システム）やBeyond 5Gなど次世代の情報通信基盤の整備に取り組む。
  - また、離島等の条件不利地域においては、都市部と同等の情報通信環境の確保に向け、海底光ケーブル等の中継伝送路の段階的な整備や陸上通信網の地下埋設等の整備を図り、安定かつ質の高い情報通信基盤の確保に取り組む。
  - すべての学校において情報教育の充実や各教科でのデジタル教材の活用促進に向け、ICTの進展に対応した情報通信設備や機器等の整備に取り組む。

目標値の設定の考え方（案）



- 中間年のR8目標値を、100%として設定する。

実績値 (R2)	99.3%
中間値 (R8)	100%
目標値 (R13)	100% ※

※中間年に、情報通信技術の進展や普及状況を踏まえて、指標の見直しを行う。

## 基本施策

# 1-(12) 自立型経済の構築に向けた社会基盤の高度化とネットワークの形成

## 施策展開

### イ 世界水準の拠点空港等の整備

## 施策

### ①那覇空港の更なる機能強化

## 成果指標

### 那覇空港の年間旅客数

## 成果指標の定義（案）

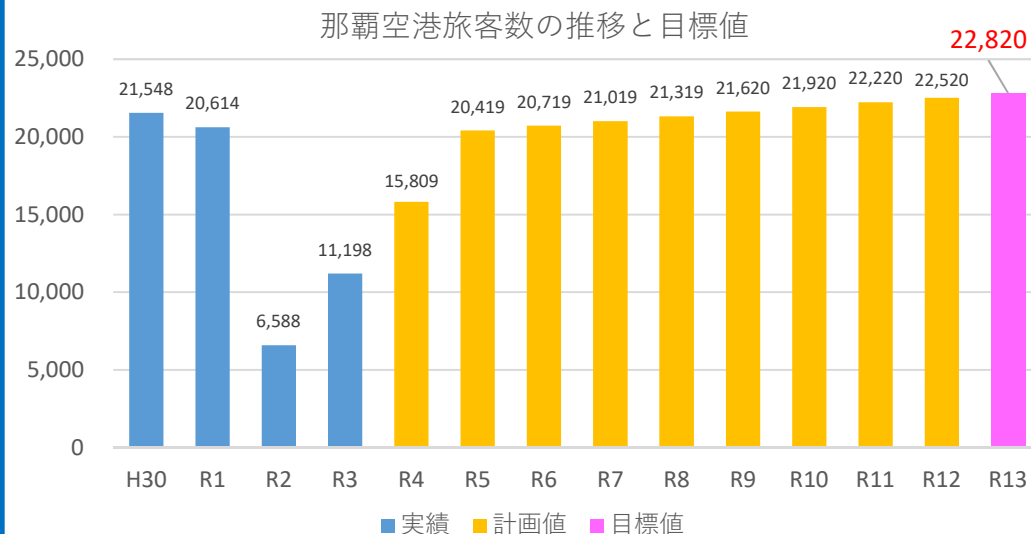
- 県民及び国内外の観光客など含む那覇空港を年度内に利用した旅客数

## 目標値の設定の考え方（案）

実績値（R2）	6,588千人
実績見込み値（R3）	11,198千人
目標値（R13）	22,820千人

目標値は国が算出した那覇空港の需要予測値を踏まえて設定した。

※那覇空港滑走路増設事業再評価資料（平成29年7月）



## 主な取組

### ① 那覇空港の更なる機能強化

（新たな振興計画（素案）P141参照）

- 新型コロナウイルス感染症の収束を見据えた中長期的な航空需要や「新しい生活様式/ニューノーマル」による人の流れ等を勘案し、空港エリアの拡張や展開用地の確保、新ターミナルの整備など、国や関係機関と連携し、那覇空港の将来のあり方について調査・研究に取り組む。
- 空港利用者の利便性向上のため、先端技術を導入した空港サービスによるストレスのない空港を目指し、チェックインから搭乗手続まで全行程を自動化するシステム等を活用したCIQの迅速化などの機能整備を促進する。
- 駐車場の増築整備や空港から鉄軌道を含むその他公共交通機関等をスムーズに利用できる環境や、MaaS等による交通システムの整備を促進する。

# 基本施策

## 3-(12) 自立型経済の構築に向けた社会基盤の高度化とネットワークの形成

### 施策展開

### ウ 経済成長を加速させる拠点港湾機能やネットワーク機能の強化拡充

#### 施策

#### ① 那覇港の物流・人流機能の強化

#### 成果指標

#### 那覇港の年間旅客数・公共取扱貨物量

### 成果指標の定義（案）

- 国内外からのクルーズ船や離島航路船で那覇港を利用する年間旅客数

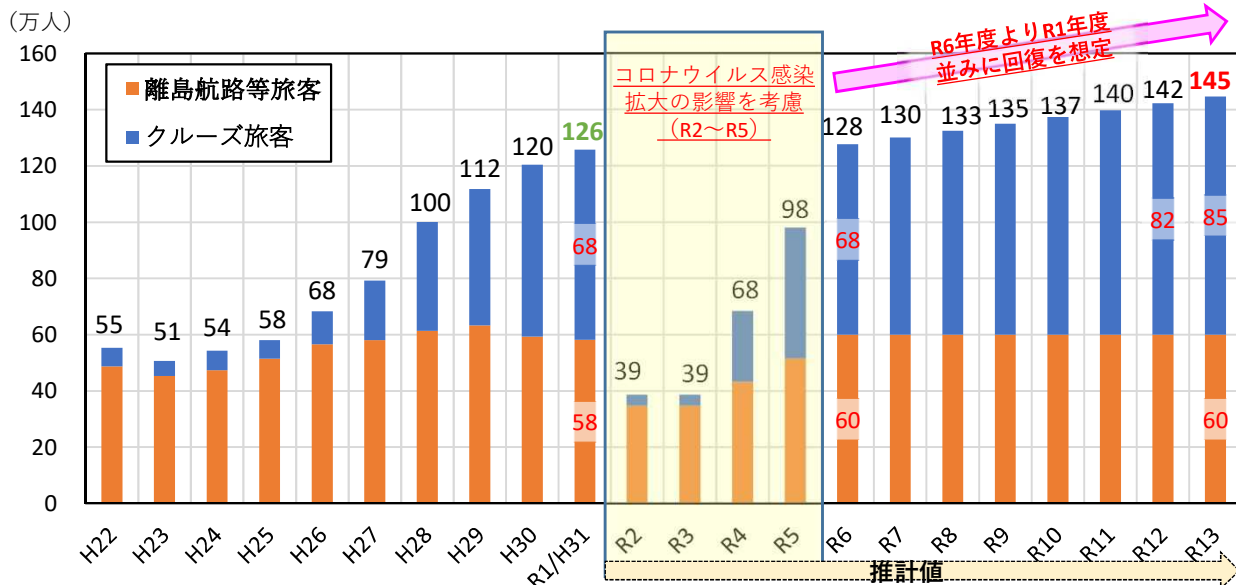
### 目標値の設定の考え方（案）

#### ◆那覇港の年間旅客数

実績値（R1）	126万人
目標値（R13）	145万人

・目標値の設定について

1. 船社ヒアリングによるクルーズ船のR12年目標値（約82万人）をもとに、R13目標値を設定
2. 離島航路等旅客数については、過去実績値よりほぼ横ばいであるため、R6年度以降も同水準と想定
3. コロナウイルス感染拡大の影響をR2～R5に設定



※目標値の設定については、精査中であり、今後決定される観光指標等の目標値や那覇港の港湾計画改訂に際し設定する将来推計値等より総合的に判断する予定

### 主な取組

- ① 那覇港の物流・人流機能の強化  
（新たな振興計画（素案）P143参照）
  - 那覇港においては、国際流通港湾としての機能充実に図るため、港湾貨物の円滑な輸送を確保する臨港道路の整備、防波堤の延伸・改良、船舶の大型化に対応する岸壁の延伸・改良等の港湾施設の拡充整備に取り組む。
  - また、ロジスティクスセンターなど、国際物流拠点を構成する主要施設の戦略的な再編の検討を進める。
  - 全国的なモーダルシフトの流れを取り込み、貨物を那覇港内で輸入・移入し保管、仕分け等を行い、輸出・移出する取組等により、那覇港の中継機能を強化し、これまで課題であった片荷輸送の解消に取り組む。
  - 生活物資や産業関連物資等が集中する国内航路については、船舶の大型化に対応する岸壁、ふ頭用地、上屋等を整備し、港湾施設の強化・拡充等に取り組む。特に、新港ふ頭地区については、RORO船の大型化や内貿貨物の増大等により那覇港全体の貨物の7割が集中していることから、那覇港の港湾施設用地等の拡大や臨港産業等の産業集積に必要な展開用地の確保については、新たな内外貿ユニットロードターミナル等の整備、各ふ頭の機能再編、那覇港及び周辺地域の物流倉庫の更新・整備等を行うことで、港湾施設の拡張等に対する様々な方策を検討し、内貿貨物に対する港湾機能の充実に取り組む。

など

# 基本施策

## 3-(12) 自立型経済の構築に向けた社会基盤の高度化とネットワークの形成

### 施策展開

### ウ 経済成長を加速させる拠点港湾機能やネットワーク機能の強化拡充

#### 施策

#### ① 那覇港の物流・人流機能の強化

#### 成果指標

#### 那覇港の年間旅客数・**公共取扱貨物量**

### 成果指標の定義（案）

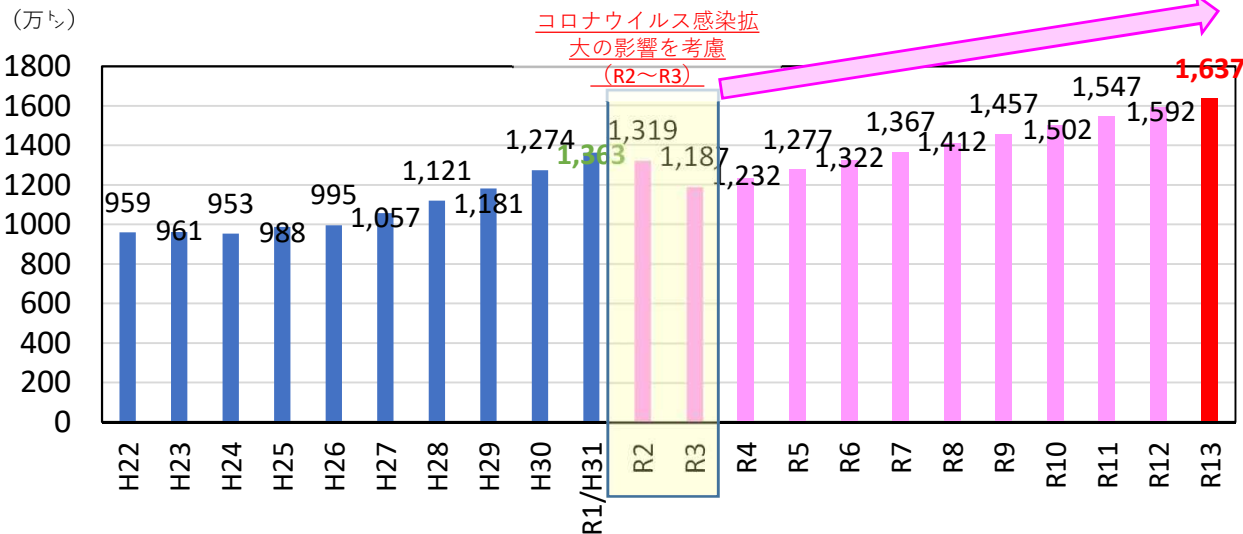
- 那覇港における行政が管理運営する岸壁（公共岸壁）で取り扱う国内外航路の1年間の総貨物量

### 目標値の設定の考え方（案）

#### ◆那覇港の公共取扱貨物量

実績値（R1）	1,363万トン
実績見込み値（R2※速報値）	1,319万トン
目標値（R13）	1,637万トン

・目標値の設定について  
 H22年～R1/H31年の実績値の傾向をもとに近似式を用い、目標値を設定。  
 なお、R3までは新型コロナウイルスの影響を考慮し、R4より回復見込みとしている。



※目標値の設定については、精査中であり、今後決定される観光指標等の目標値や那覇港の港湾計画改訂に際し設定する将来推計値等より総合的に判断する予定

### 主な取組

#### ① 那覇港の物流・人流機能の強化 （新たな振興計画（素案）P143参照）

- 那覇港においては、国際流通港湾としての機能充実に図るため、港湾貨物の円滑な輸送を確保する臨港道路の整備、防波堤の延伸・改良、船舶の大型化に対応する岸壁の延伸・改良等の港湾施設の拡充整備に取り組む。
- また、ロジスティクスセンターなど、国際物流拠点を構成する主要施設の戦略的な再編の検討を進める。
- 全国的なモーダルシフトの流れを取り込み、貨物を那覇港内で輸入・移入し保管、仕分け等を行い、輸出・移出する取組等により、那覇港の中継機能を強化し、これまで課題であった片荷輸送の解消に取り組む。
- 生活物資や産業関連物資等が集中する国内航路については、船舶の大型化に対応する岸壁、ふ頭用地、上屋等を整備し、港湾施設の強化・拡充等に取り組む。特に、新港ふ頭地区については、RORO船の大型化や内貿貨物の増大等により那覇港全体の貨物の7割が集中していることから、那覇港の港湾施設用地等の拡大や臨港産業等の産業集積に必要な展開用地の確保については、新たな内外貿ユニットロードターミナル等の整備、各ふ頭の機能再編、那覇港及び周辺地域の物流倉庫の更新・整備等を図ることで、港湾施設の拡張等に対する様々な方策を検討し、内貿貨物に対する港湾機能の充実に取り組む。

など